

意義深かった 夫婦の共演 ご夫婦でソリスト



テノール 西垣俊朗 子
ソプラノ 西垣千賀

第六回「第九」演奏会に出演させて頂き、本当に有難うございました。

六年という長きに渡り、日々「フロイデ合唱団」として歌い継いで来られた熱き想いが、体育館に響き渡り、私達ソリストも引き込まれて歌っておりまして。「継続は力なり」とは本当によく言われたもので、一度より二度、二度より六度と積み上げられた皆様の歌声が熟成され、大きな喜びの歌となつて行く。すごい事です。ね。過去より現在、そして未来に歌い継いで行く。その過程で一緒にさせて頂けた事は、とても幸せでした。

皆様と同じように二十回位「第九」を毎年歌っている団がありますが、その団長さんが「いろんなチャレ

ンジがあると思います。一つ夢のある願望があるのです。それは、ソリストも夫婦二組でやりたいのです。」と仰いました。

彼女の想いは、合唱もソロもアットホームで、チームワークのある演奏が出来れば、本当の意味での「フロイデ」ではないかしらと。

二組のソリストは大賛同し、六年間同じソリストで歌いました。

彼女の遺志を継ぐがごとく、毎年すてきな「第九」が演奏されました。

六年終わったら、大正の「第九」のお話があり、心を同じくする方達が私達夫婦をお呼び下さったのかと思いました。

健康な身体と精神こそが上質の音楽を奏でる条件だと思います。

どうか皆様もお元気で来年の「第九」に向け、日々の精進をお続け下さる事を、心よりお祈りしております。

第一回目からの 連続出演に感謝と感動



ソプラノ 金沢恵美

二月十九日千島体育館で、私たち「大正フロイデ」の

第六回「第九」演奏会が開催されました。

思えば「ブラボー！」の掛け声と共に、総立ちの観客から拍手が鳴り止まなかった第一回目。

あの日の感動から、連続六回出演できた事、本当に嬉しく思っています。

毎年、いろんな友人に観て頂き好評を得ています。諸先生方のご指導の賜と、深く感謝致しております。

特に今回は、クラシックには全く縁遠い次男が、初めて見に来ました。

これも気兼ねなく集える千島体育館ならではの事と、地域コンサートの良さを再確認しました。

明年から会場がバージョニアップするようですが、真剣に聞き入っている観客の皆様顔を思い浮かべて、大丈夫だわ、と思いました。

昨年三月、日本が大震災に見舞われたとき、被災者の方々の心を励まし、沈む気持ちを癒やす上で、歌や演奏がもたらす力が改めて注目されました。

音楽の放つ光は、限りない希望をともし行くものですね。

何の芸もない私が、この六年間に様々なステージに皆様と一緒に立たせてもらい、拍手を頂ける様になるなんて、夢のようです。大正フロイデ・バンザイ！音楽の力・バンザイ！！

今年度は 頑張ります！



テノール 今井信男

合唱団の団員の皆様、お元気でしようか。今井です。

昨年末から何かと忙しくなり、練習の方も殆ど不参加の状態が続きました。

仕事を七時過ぎには終え、八時には行けるような時でも、仕事の疲れもあって、職場の皆と軽く飲みに行くか、そのまま本町で乗り換えて帰宅する（家は、地下鉄中央線で本町→コスモスクエア→ポートタウン西）

かで、「心斎橋」経由「大正」が大変億劫になりました。

「このままではいかん」と思いながらも、足が遠のいてしまい、その結果、今までずっと参加させて頂いていた「第九」定期演奏会も、サウンド・オブ・ミュージックが歌えない事もあつて、辞退させて頂いた次第です。

ただこの間も、休みの日にはヘッドホンをつけて一九六〇年代から七〇年代のフオークを、ボリリュムを微調整してHARMONYすること、発声や音感は鈍

らない様にしておりまして。先日総会で、三十分程度ではありましたが、第六回定期演奏会の口ぐさを見たいしました。

サウンド・オブ・ミュージックは綺麗に聞こえましたが、「第九」のサビの部分も迫力があり、何より、誰一人楽譜を手に入れている人はいませんでした。

「第九」については、いよいよ成熟期を迎えたのではないかと感じました。

ただ、「第九」は本当に難しい歌で、私などは、最初の半年で歌える様になって以降、ほとんど成長していかないような気がしております。

高音部が透き通った声で歌えない（全部ですが）、ドイツ語の発音に流暢さがなく、詩の意味を未だ理解してない、などです。

そのような事で、昨年はほとんど成長もなく、貢献も出来ていない一年でした。

やはり、目的意識や思いといったものがないと、人間は成長しないですね。

今年もそれほどの時間の余裕はないと思いますが、西木先生をはじめとする講師の方々が、せつかく毎年色んな美しい曲、楽しい曲を選んで頂いておりますし、自分自身の財産としても前向きに取り組んで行きたいと考えておりますので、よろしくお祈りします。